貸借対照表の科目例

|  |
| --- |
| 以下に示すものは、一般によく使われると思われる科目のうち、主なものを例示したものです。したがって、該当がない場合は使用する必要はありませんし、利用者の理解に支障がなければまとめても構いません。また、適宜の科目を追加することができます。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 勘定科目 | 科目の説明 |
| Ⅰ　資産の部　 | 　 |
| 　 | １．流動資産 |  |
| 　 |  | 現金預金 |  |
| 　 |  | 未収金　 | 商品の販売によるものも含む。 |
| 　 |  | 棚卸資産 | 商品、貯蔵品等として表示することもできる。 |
| 　 |  | 短期貸付金 | 返済期限が事業年度末から１年以内の貸付金。 |
| 　 |  | 前払金　 |  |
| 　 |  | 仮払金　 |  |
| 　 |  | 立替金　 |  |
| 　 |  | ○○特定資産 | 目的が特定されている資産で流動資産に属するもの。目的を明示する。 |
| 　 |  | 貸倒引当金（△） |  |
| 　 | ２．固定資産 |  |
| 　 | (1)　有形固定資産 | 土地、建物等実体があり、長期にわたり事業用に使用する目的で保有する資産。 |
| 　 |  | 建物 | 建物付属設備を含む。 |
| 　 |  | 構築物 |  |
| 　 |  | 車両運搬具 |  |
| 　 |  | 什器備品 |  |
| 　 | 　 | 土地 |  |
| 　 |  | 建設仮勘定 | 工事の前払金や手付金等、建設中又は制作中の固定資産。 |
| 　 | (2)無形固定資産 | 具体的な存在形態を持たないが、事業活動において長期間にわたり利用される資産。 |
| 　 |  | ソフトウェア | 購入あるいは制作したソフトの原価。 |
| 　 | (3）投資その他の資産 | 余裕資金の運用のための長期的外部投資や、貸付金等長期債権から構成される資産。 |
| 　 |  | 投資有価証券 | 長期に保有する有価証券。 |
| 　 |  | 敷金 | 返還されない部分は含まない。 |
| 　 |  | 差入保証金 | 返還されない部分は含まない。 |
| 　 |  | 長期貸付金 | 返済期限が事業年度末から1年を超える貸付金。 |
| 　 |  | 長期前払費用 |  |
| 　 |  | ○○特定資産 | 目的が特定されている資産で固定資産に属するもの。目的を明示する。 |
| Ⅱ　負債の部　 |  |
| 　 | １．流動負債 |  |
| 　 |  | 短期借入金 | 返済期限が事業年度末から１年以内の借入金。 |
| 　 | 　 | 未払金　 | 商品の仕入れによるものも含む。 |
| 　 |  | 前受金　 |  |
| 　 |  | 仮受金　 |  |
| 　 |  | 預り金　 |  |
| 　 | ２．固定負債 |  |
| 　 |  | 長期借入金 | 返済期限が事業年度末から１年を超える借入金。 |
| 　 |  | 退職給付引当金 | 退職給付見込額の期末残高。 |
| Ⅲ　正味財産の部 |  |
| 　 | １．正味財産 |  |
| 　 |  | 前期繰越正味財産 |  |
| 　 | 　 | 当期正味財産増減額 | 　 |

（注）重要性が高いと判断される使途等が制約された寄附金等（対象事業等が定められた補助金等を含む）を受け入れた場合は、「Ⅲ　正味財産の部」を「指定正味財産」と「一般正味財産」とに区分してそれぞれを勘定科目として表示し、当該寄附金等を前者に計上することが望ましい（表示例は貸借対照表の様式例参照）。